

臨床化学研修会報告書
生涯教育研修会報告書
学発番号 第 12-063 号

平成 25 年 3 月 18 日報告
報告者：後藤 直樹
所属：京都保健衛生専門学校
連絡先：075-801-2571

主題：臨床検査分野 研修会

主題 1：臨床化学分析における主な定量法の成り立ち

講師 1：今田 貴之 氏（協和メディックス）

主題 2：酵素法によるクレアチニン測定における試薬組成、試料量および実験の組立て

実技：波長設定、直線性、共存物質の影響を確認および未知試料の測定
データまとめ

講師 2：藤本 一満 技師（ファルコバイオシステムズ総合研究所）

山本 慶和 技師（天理医療大学）

中島 康仁 技師（松下記念病院）

南部 昭 技師（京都府立医科大学附属病院）

和田 哲 技師（県立和歌山医科大学附属病院）

中村 美保 技師（ファルコバイオシステムズ総合研究所）

平成 25 年 3 月 18 日（日） 9:00～17:00
場所：京都保健衛生専門学校 視聴覚教室
分類：臨床化学部門 4 検体検査 52 20 点
全体参加人数：43 人
京臨技会員参加人数：11 人
他府県会員参加人数：20 人
学生参加者：0 人
非会員参加人数：12 人

以下、講演内容など

午前中に協和メディックス今田氏より、過酸化水素系、NADH 系など臨床化学分析における主な定量法の成り立ちについてお話をいただいた。臨床化学分析の多くがこの 2 つの測定系によって成り立っているため、この部分を理解することが基本となることを改め

て感じた。内容も丁寧かつわかりやすくご説明いただいたので、参加者も理解できたと思われる。

午後からは、午前話を踏まえて、過酸化水素系の測定原理を用いたクレアチニン測定の実習を行なった。1班6名程度に分けて、各班に指導者がつき、少数で実習が行なえる体制をとった。試薬には協和メディックスより提供いただいたデタミナーシリーズを用いた。今回は基礎知識・技術の習得を目的としているため、測定のパラメータも計算し参加者で設定し、測定波長も吸収曲線を取り、主波長・副波長も参加者が設定をした。その測定条件を使い、直線性、共存物質の影響を確認し、最終的に未知検体のクレアチニン値を2波長測光、2ポイント法にて求めるところまで行なった。実習終了後は班毎に質疑応答を行った。普段、自動分析が行なっている操作を用手法で行なうことで参加者もクレアチニンの測定に関して、原理を含めて理解できたのではないかと思う。今後も実技を兼ねた研修会の開催の必要性を感じた。